

第 20 回淀川部会（2002.12.13 開催）結果報告

2002.12.24 庶務発信
(12.20 版を改訂)

開催日時：2002年12月13日(金) 13:30～16:40

場 所：京都リサーチパーク4号館地下1階 バズホール

参加者数：委員 15 名（うち 1 名は部会長の要請により参加） 河川管理者 19 名、一般傍聴者 147 名

1 決定事項：特になし

2 審議の概要

委員会および各部会の状況報告

資料 1-1「委員会および各部会、WGの状況」をもとに、活動状況等について報告が行われた。

提言（案）に関する意見交換

今本委員（最終提言作業部会リーダー）より、資料 2-2「淀川水系流域委員会 提言（案）（修正案 021129 版）」及び資料 2-2 補足「提言素案 021113 版から 021129 版への主な修正点について」をもとに説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は下記のとおり。

<4-6 ダムのあり方について>

- ・「抑制する」という言葉は一般にはわかりにくく、不明確。「建設しない」「採用しない」などとはっきり書くべき。（同様の意見が大半の委員から出された）
- ・ダムを抑制する理由に、ダムの環境的影響だけでなく社会的影響についても記述すべき。
- ・計画・工事中のダムに関して、幅広い解釈を許すような記述は避けたほうがよい。2、30 年後まで考え、誰が読んでも誤解の生じない記述にすべきである。

委員より、「部会としての意見をまとめるべきでは」との提案があり、「抑制するという表現は上記の意見をもとに修正する」「計画・工事中のダムについても記述すべき」といった方向性が部会の場で確認された。なお、部会長から「正式には個々の委員が文書にして提出頂きたい」旨の要請があった。

<4-5 河川利用計画のあり方>

- ・4-15 頁の「魚が減れば、稚魚等を放流して漁業を成立させるといった考え方を改め」という記述を削除したい。現実として、放流しなければ内水面漁業は成り立たない。
稚魚を放流しなくとも、漁業が成り立つような河川環境に戻していかなければならない。
表現を修正する余地はあるが、記述そのものは残しておくべきだ。

一般からの意見聴取

一般傍聴者 4 名から、「自然のダムである琵琶湖の存在が、京都、大阪の発展を導いた。そのような点からダムは必要である」、「個々のダム計画を精査頂きたい」、「湧水地域に余剰水を回すシステム構築が必要」、「提言は偏った自然保護観の押し付けである」等の発言があった。

3 その他（今後の進め方等について）

- ・資料 4「今後の進め方および会議開催日程について」をもとに、部会長より、提言（案）とりまとめと河川整備計画について、今後予定されている進め方について説明が行われた。
- ・資料 5「淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第 1 稿）」について、河川管理者（近畿地方整備局）より、資料の位置付けや見方について以下の説明が行われた。
 - ・本資料は河川整備計画原案ではない。河川整備計画策定に向けた検討の経過をとりまとめた現状報告である。1/24 に行う原案（第一次素案）の説明に向けてご一読をお願いしたい。
 - ・検討の流れに沿って、表の左の列から、課題 方針 具体の整備内容、の順に並べている。

このお知らせは委員の皆様へに会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。